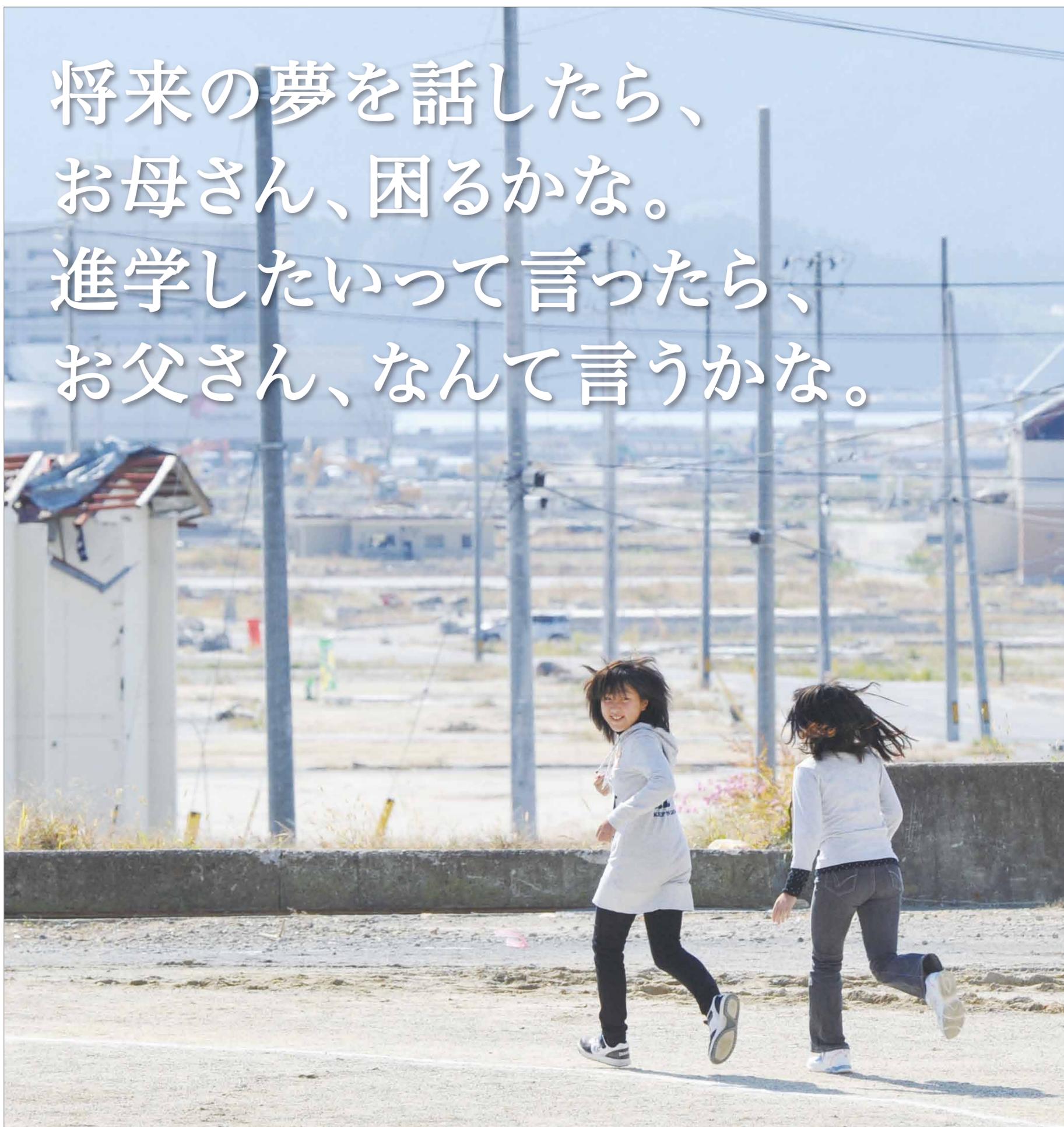


将来の夢を話したら、
お母さん、困るかな。
進学したいって言ったら、
お父さん、なんて言うかな。



東日本大震災 子ども支援募金

まだまだ支援を必要としている子どもたちがいます。
ご協力をお願いします。



公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

震災は、子どもたちの未来に 大きく影を落としています。

夢や希望という言葉が重く感じる。

現実とのギャップが否応なくある。

「夢や希望をもって、がんばれ」なんて言っても、
子ども自身は口にはしませんが「どうせ親がいないし」
「どうせお金がないし」と思っているのではないかと思うと、
無責任な言葉のような気がする。

家に帰れば、現実が待っている。

もしかしたら、寂しそうにお母さんが
ポツンと座っているのかもしれない。

どう支援していいか、どう夢や希望を
持たせたらいいのか、わからない。

いずれ自分たちで立ちあがらなければならない。
それに対して、私たちがどのようなことができるか
考え、行動を起こさなければならない。

陸前高田市立高田小学校 平副校長先生



2011年3月11日 午後2時46分

誰も予想しなかった規模の災害が、東北地方をおそい、

この震災で被災地に住む子どもたちの生活も大きく変わりました。

岩手県にある陸前高田市立高田小学校では、校舎1階まで津波が押し寄せ、

1階は瓦礫と泥まみれとなり、体育館には車が突き刺さっている状態でした。

津波にのまれ、校庭で亡くなってしまった人もいます。

泥が入りこんだ校舎は、さまざまなところからボランティアがかけつけ、4月20日ようやく学校再開。

337人の児童の約4割130人近くが仮設住まいとなりました。

「1学期は学校生活のリズムを取り戻そうと、修学旅行や運動会は延期。

ただ、10月におこなう予定だった遠足だけは、7月におこなった。

行事をおこなうと、欠席が少なくなった。」

「夏休みには、忙しいなか父母が集まって、子どもたちのために夏祭りをおこなった。

2学期は通常の学校活動をできるように努めている。」

「まずは、普通の生活に戻す。支援物資がなくても、イベントがなくても

学校生活が送れるような状態に戻す。できるだけ早く、震災前の学校生活に戻す。」

と先生達は、固い決意のもとに多くの課題に立ち向かっています。



朝7時過ぎ 登校時



子どもたちの約4割が仮設住宅から通っています。瓦礫の中を歩いている通学は危険なので、スクールバスや保護者の自家用車による送迎で登下校を行っています。



授業中



表には出しませんが、色々な思いを抱えて子どもたちは生活しています。
学校で友だちと会ったり、学んだり、そういった時間が子どもたちにとって救いになっていると先生たちは感じています。

1学期は、学校のリズムを取り戻すことを目指しました。

2学期は5年生のキャンプに始まり、さまざまな行事を詰め込みました。
行事に対して、児童たちは、100%以上の力で真摯に取り組んでいました。

3月11日をどのように迎えるか、11月末から職員で話しあい、
児童たちは、1年間自分が頑張ったことを振り返る作文を書くことにしました。



放課後



〈部活に励む子どもたち〉
野球道具も流出してしまいました。
震災後、家庭の事情から部活を辞めざるを得なかった子もいます。



〈遊具で遊ぶ子どもたち〉
仮設住宅には、子どもたちが遊ぶ場所もなく、
遊ぶ友達もあまりいないといいます。

孫を迎えにきたおばあちゃんに家でのお孫さんの様子を聞いてみると、
「仮設住宅では、友達があまりいない。誰とでも打ち解けるような子じゃないから学校の友達といることのほうが多い。
孫に、『もっと友達と遊んでいたいから) ゆっくり迎えに来て』と言われた」。



下校時



授業が終わると、スクールバスの時間に間に合うように帰宅します。1時間かけて通学する子もいます。学童保育所で過ごす児童も増えました。



被災地での声

(2011年10月12日)

陸前高田市立高田小学校

■平副校長先生

〈学校再開されるにあたって、苦労されたことは何でしょうか〉

環境面が心配だった。水道も使えなかったし、トイレも使えなかった。でも、子どもたちは学校に来るのを楽しみに待っていると思っていた。学校の方が絶対楽しいはずだから。

〈半年過ぎて、子どもたちの様子はどのように変化してきましたか〉

1学期は、リズムを取り戻そうとした。通常であれば、4月に修学旅行、5月に運動会を実施するのだが、延期した。ただ、10月に実施する予定だった遠足だけは、7月に実施した。行事をやったら、欠席が少なくなった。2学期は通常の活動をできるように努めている。9月には運動会をやり、6年生は平泉に修学旅行にも行った。10月末には、学習発表会もある。行事をすると、学校生活にメリハリがでてくる。いまは、心や頭の足腰を鍛えていかなければならない時。子どもだけじゃなくて、親もそうかもしれない。

〈子どもたちの家庭の様子について、聞いていることを教えてください〉

震災孤児8人、親を亡くした子59人、約100人転出。

野球部キャプテンの村上くん(6年生)。彼のお父さんは、市役所の職員で、住民を誘導している途中で亡くなってしまいました。当連盟の復興育英基金の奨学生です。



■孫のお迎えにきた祖母

○現在は仮設住宅に住んでいる

〈お孫さんは夏休みはどのように過ごされていましたか〉

夏はなじみのプールに行けず、私と二人きりで家にいることが多かった。共働きじゃないと子育てできない。

■小学5年生と2年生の子をもつお母さん

○小学校より海側に住んでいたため、家は流されてしまった。一度一関市のほうに避難したが、仮設住宅が当たり、高田地区に戻ってきた。学区は違うが、友達がいるので、高田小学校に戻ってきたという。

〈子どもたちのことで気がかりなことは何かありますか〉

安全面での心配が残る。また大きな地震がきたら……。お兄ちゃんは、少しでも地震があると逃げる(外に飛び出す)。

■小学5年生の女の子と3年生の男の子をもつお母さん

○現家も残り、仕事(公務員)もある

〈震災後の子どもたちの様子はどうでしょうか〉

プールや水泳を怖がるようになった。また、お風呂で水が溢れると「津波だ!」と言っている。一人で津波ごっこをしていることもある。あとは、一人で留守番ができなくなった。3年生の男の子は、震災直後は3~4日、夜泣き状態だった。いまでも、夜中に泣いたりすることがある。

■小学4年生の女の子と2年生の男の子をもつお母さん

○家が流されてしまい、一度実家に戻るものの、仮設住宅が当たり、高田地区に戻ってきた

〈震災後の子どもたちの様子はどうでしょうか〉

いままで許されていたものが許されなくなったことに子どもも戸惑いを感じていた。両親がいない子は怒られないのに、自分は怒られるということがあったりした。また、親を亡くしたグループ、被災を受けたグループ、被災を受けなかったグループとわかれてしまい、いままで仲良かった子と話さなくなってしまうなど、子どもの中でもあったようだ。どう接していいか子どもがわからなくなり、「学校に行きたくない」と言っていたこともあった。

気仙沼市立大谷小学校

■阿部教頭先生

〈半年過ぎて、子どもたちの様子はどのように変化してきましたか〉

夏休みが明けて、仮設住宅が完成しました。児童全員の住む場所が確保され、一安心しています。しかし、働く場所を失い、収入が安定しない生活は保護者にとって大きな課題であると思います。そんな中で、今までと違った生活環境や見えない不安の中で寝られなかったり、ちょっとしたことでイライラを感じると答える子どもが増えています。各家庭が安定した生活を送れるまでどれくらいの時間がかかるかわかりませんが、互いに支え合いながら新しいものを作りあげ、生活に自信が持てるようになったときに初めて元の生活に戻ったといえるのだと思います。



校庭の半分以上は、仮設住宅になってしまいました。



これまでの支援

震災から1年。

宮城と岩手、そして福島において、さまざまな支援活動を行ってまいりました。

これからも活動をとおして見えてきたニーズと、子どもが安心して学べる地域づくりを目指し、

「学校支援」「奨学金」「文化復興支援」を3本の柱とした、

中長期にわたる復興支援を継続してまいります。

学校支援



- 学習に必要な教材・備品などの支援
(岩手県・宮城県・福島県で167校)
※下記参照
- 移動図書館車(岩手県洋野町/岩手県釜石市/岩手県大槌町/宮城県気仙沼市)、スクールバス(宮城県亘理町)、学童保育所開設(岩手県釜石市)を支援

● 学校支援調達確定校(2012年2月13日現在)

【岩手県】宮古市: 鶴磯小学校/田老第一中学校/千鶴小学校/そけい幼稚園 岩泉町: 小本小学校 釜石市: 釜石市教育委員会 大船渡市: 赤崎小学校/大船渡小学校/越喜来小学校/綾里小学校/赤崎中学校 陸前高田市: 気仙小学校/小友小学校/小友中学校/高田小学校/気仙中学校/広田中学校/陸前高田市教育委員会 山田町: 山田北小学校/船越小学校 大槌町: 大槌北小学校/大槌小学校/赤浜小学校/大槌中学校/おさなご幼稚園/みどり幼稚園 岩手県: 宮古工業高校/高田高校 【宮城県】気仙沼市: 小原木中学校/大谷中学校/大谷小学校/大谷幼稚園/南気仙沼小学校/階上小学校/唐桑幼稚園/鹿折小学校/葦の芽星谷幼稚園 多賀城市: 多賀城八幡小学校 南三陸町: 戸倉中学校/名足小学校/戸倉小学校/あさひ幼稚園 名取市: 関上小学校/関上中学校/下増田幼稚園/下増田小学校 石巻市: 住吉小学校/住吉中学校/船越小学校/門脇小学校/湊第二小学校/湊小学校/湊中学校/貞山小学校/雄勝小学校/雄勝中学校/大街道小学校/大川中学校/開北小学校/渡波小学校/釜小学校/谷川小学校/吉浜小学校/山下中学校/相川小学校/湊幼稚園 東松島市: 鳴瀬第二中学校/赤井南小学校/浜市小学校/矢本第二中学校/大曲小学校 仙台市: 中野小学校/荒浜小学校/東六郷小学校/岡田小学校/高砂中学校 亘理町: 荒浜中学校/荒浜小学校/吉田中学校/長瀬小学校/高谷小学校 七ヶ浜町: 七ヶ浜中学校/松ヶ浜幼稚園 山元町: 中浜小学校/山下第二小学校 岩沼市: 玉浦中学校 宮城県: 気仙沼向洋高校/宮城農業高校/石巻女子商業高校/石巻工業高校/石巻商業高校/石巻水産高校/石巻好文館高校 【福島県】いわき市: 永崎小学校/豊間小学校/久之浜第一小学校/久之浜第二小学校/四倉中学校/豊間中学校/田人中学校/久之浜第一幼稚園 鏡石町: 鏡石第一小学校 須賀川市: 須賀川小学校 南相馬市: 真野小学校 福島県: いわき海星高校 【原発支援校】飯館中学校/大熊中学校/熊町小学校/大野小学校/大熊幼稚園/八沢小学校/高平小学校/福浦小学校/大みか小学校/太田小学校/原町第二小学校/鹿島小学校/原町第一小学校/小高小学校/原町第三小学校/上間野小学校/石神第二小学校/金房小学校/鳩原小学校/鹿島中学校/原町第三中学校/小高中学校/原町第二中学校/石神中学校/小高工業高校/双葉高校/山木屋小学校/山木屋中学校/富岡中学校/双葉翔陽高校/原町高校

奨学金



- 被災した遺児孤児に対する奨学金の支援
〈宮城県〉671名 〈岩手県〉450名 〈福島県〉80名 〈その他県〉32名 合計1,233名
- 被災して就学困難な児童・生徒(主に中学生)の支援
〈宮城県〉気仙沼市/石巻市/南三陸町/仙台市 1,192名、
〈岩手県〉大槌町/陸前高田市 121名
合計1,313名

文化復興支援



- 被災地域に伝わる伝統的な神楽や祭りなどの無形文化団体への支援
〈宮城県〉石巻市 雄勝法印神楽
〈岩手県〉釜石市 櫻舞太鼓/片岸虎舞/両石虎舞/東前太神楽
- 被災地域の小・中・高等学校の授業で実践されている郷土芸能への支援
・石巻市雄勝小学校 神楽クラブへの支援
・気仙沼市浦島小学校 小々汐太鼓への支援
・大船渡市越喜来小学校 浦浜念仏剣舞への支援
・宮城県亘理郡中浜小学校 中浜子ども神楽への支援



これまでの支援

さまざまな著名人の方々が募金活動や被災地訪問



UNESCO スポーツチャンピオン
日本相撲協会
第六十九代横綱 白鵬関



UNESCO 平和芸術家
バイオリニスト 二村英仁さん



日本ユネスコ協会連盟
世界寺子屋運動広報特使「まなびゲーター」
フリーアナウンサー
久保純子さん



日本ユネスコ協会連盟
世界遺産活動特別大使“犬”(ワンパサダー)
わさおくん



日本ユネスコ協会連盟
スペシャルアドバイザー
雅楽師 東儀秀樹さん



世界中の人びとが恐るべき自然の力に衝撃を受けるとともに、日本の人びとがそれを克服しようとしている姿に感銘を受けています。
今回の大地震と大津波の被災地に住む日本の子どもたちと先生方を支援するために温かいご支援をお願いします。

国際連合教育科学文化機関(UNESCO)
事務局長 イリーナ・ボコバ



公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

これまでの支援



スクールバスの支援



学用品の支援



学童保育所の支援



図書の寄贈



遠足代などの支援

まだまだ支援が足りません。 引き続き、ご支援お願いします。

〈ユネスコ協会就学支援 奨学金について〉

震災から半年以上が経過し、被災地は少しずつ復興に向けて歩みだしています。

しかし、被災した方たちの中には家を失った方が大勢います。

現在は、失業保険等でなんとか暮らしをつないでいる方々も、

今後の暮らしには強い不安を感じています。

子どもを持つ被災地の親たちはこう言います。「子どもには、学費の心配だけはさせたくない」と。

震災の影響で、経済的な理由で就学が困難になっている子どもたちは、7万3千人以上と推測され、

また小学生と中学生に限定した場合は、3万4千人にのぼるといわれています。

日本ユネスコ協会連盟では、このような親御さんたちの痛切な思いを受け、

「ユネスコ協会就学支援 奨学金」を開始しました。

被災地の子どもたちが、希望をもって明日へと歩いていくために。

みなさまのご協力をお願い致します。



- 対象者 津波による家屋流失、失業、そのほかの理由により、著しく経済状況が悪化した家庭の小学生及び中学生。
- 名称 ユネスコ協会就学支援 奨学金
- 対象地域 岩手県、宮城県、福島県の3県で自治体を特定して実施。
- 支援期間 3年間(2011年12月以降、随時)
- 支援金額 毎月2万円(給付)

奨学生からのお便り 宮城県石巻市中学校3年生男子の子

以前と比べると部屋が狭く、勉強する環境も少なくなり、生活しづらくなりました。少し都会の方に引っ越したので、買い物の不自由は少なくなりました。以前よりも良くなったこともあれば、逆に悪くなったこともあるのが現状です。

その中でこの度ユネスコの支援奨学金の話がでてきた時は本当にありがたく思いました。あの日から母親への負担も多くなり辛そうに見えたので本当に今回のこの援助には感謝しています。これからも負けずに勉強に部活、将来の夢を叶えるため頑張りたいと思いますので応援よろしくをお願いします。

気仙沼市教育委員会白幡勝美教育長からのメッセージ

奨学金で被災地の子ども達の学びに明るい展望を

東日本大震災による津波で未曾有の被害を受けた地域に対し、温かい善意が国内外から寄せられています。中でも遺児・孤児に対する奨学金は子ども達の教育に明るい希望をもたらしてくれました。しかしながら復興の遅れから、生活の困窮により、奨学金を必要とする児童・生徒も非常に多いのが被災地の実状です。学校は正常に運営され、公的な就学支援制度が確かに機能してきていますが、それだけで被災した児童・生徒の学びの環境が整ったと言える状態にはないのです。被災家庭の児童・生徒へ奨学金の形での支援をお願いします。



公益社団法人日本ユネスコ協会連盟